平成20年2月14日　於　砂防会館

平成18･19年度学力の把握に関する研究指定校事業

「話すこと･聞くこと」領域における評価の研究

福井県立若狭高等学校
教諭　渡邉久暢

小浜から「頑張れオバマ」

若狭おばま観光協会

NHK　朝の連ドラ「ちりとてちん」にて
若狭高校の制服を着たヒロイン。
徒然亭「若狭」と名乗っている。

調査研究のねらい

話すこと･聞くこと」領域における

評価の規準と方法を開発すること

本研究の結論

- 「話す・聞く」領域だからこそ、
  ノートに残された
  「学習の蓄積」を元に、
  学習過程も評価していこう。

簡素で
効率的な
評価を持続

平成18年度　調査研究のねらい

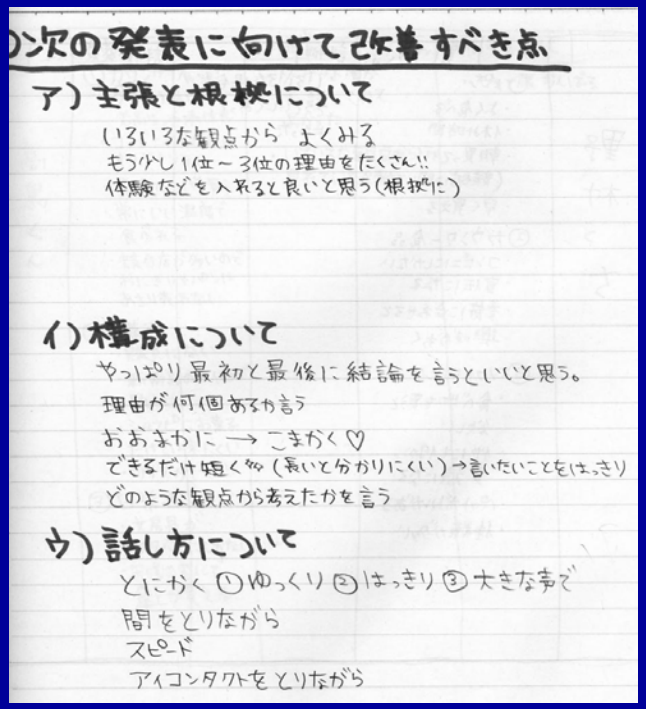
- 学習指導要領に示された「国語総合」における内容項目

「様々な問題について
自分の考えを持ち，筋道を立てて意見を述べること」

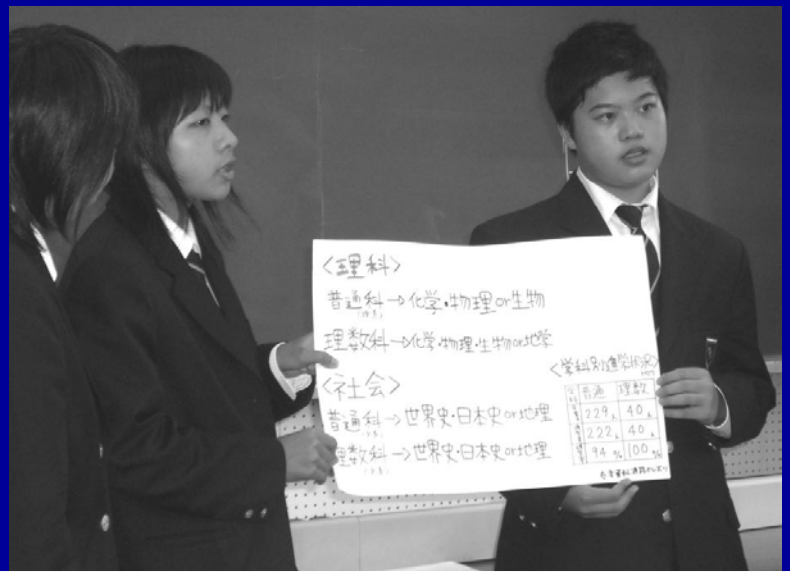
に関する，評価の規準と方法を検討すること

平成18年度　話すこと聞くこと領域 「国語総合」(1年生)
「様々な問題について自分の考えを持ち，筋道を立てて意見を述べること」

①「ノート」記述をもとに、学習過程を評価する。



②学習成果(パフォーマンス)を評価する。



の次の発表に向けて改善すべき点

ア）主張と根拠について

いろいろな観点から よくみる
もう少し1位～3位の理由をたくさん!!
体験などを入れると良いと思う（根拠に）

意欲の高まり

イ）構成について

やっぱり最初と最後に結論を言うといいと思う。
理由が何個あるか言う
おおまかに → こまかく♡
できるだけ短く(長いと分かりにくい)→言いたいことをはっきり
どのような観点から考えたかを言う

知識理解の深まり

ウ）話し方について

とにかく ①ゆっくり ②はっきり ③大きな声で
間をとりながら
スピード
アイコンタクトをとりながら

能力の高まり

学習成果を評価

<理科>
普通科(理系) → 化学・物理 or 生物
理数科 → 化学・物理・生物 or 地学
<社会>
普通科(文系) → 世界史・日本史 or 地理
理数科(文系) → 世界史・日本史 or 地理
<学科別進学状況>
普通
理数
229人
40人
222人
40人
94 %
100 %

		5	4	3	2	1
ア	主張と根拠	主張を支えるための根拠が、**具体的な体験や様々な情報に基づいて**、多様な観点から示される。	主張を支えるための根拠が、**多様な観点から**示される。	主張を支える根拠が示される。	根拠は示されるが、示された根拠が主張を支えていない。	主張を支える根拠が全く示されない。
イ	構成と話し方	発表内容の構成や話し方を、工夫したことによる、**大きな成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫したことによる**成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	発表内容の構成や話し方を工夫しようとしたことはわかる。	発表内容の構成や話し方を工夫したことがわからない。
ウ	チームワーク	チーム全体による入念な準備をのもと、熱心に取り組んだことを示す**大きな成果**がある。	チーム全体による入念な準備のもと、熱心に取り組んだことを示す**成果**がある。	チーム全体による準備のもと、取り組んでいる。	チーム全体で取り組もうとしたことはわかる。	チーム全体で取り組もうとしたことがわからない。
エ	補助資料	視覚的な補助資料を**効果的**に主張と関連させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を、**主張と関連**させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を用いながら発表する。	視覚的な補助資料を準備はしているが、それをほとんど用いない。	視覚的な補助資料は、特に準備していない
オ	質問への返答	聞き手の質問の意図に沿った返答を、**具体的かつ適切に**行う。	聞き手の**質問の意図に沿った**返答を適切に行う。	聞き手からの質問に返答する。	聞き手からの質問には、「はい、いいえ」「わかりません」などの基本的な返答しか返ってこない。	聞き手からの質問に対して、全く返答しない。

課題

細かい評価基準表を作るのは、大変な作業・・・

18年度の研究成果と課題

- 学習過程をノートにより評価するのは◎
- 学習成果の評価も必要かつ有効〇
- 評価基準表の作成は　×　･･･多大な労力

↓

簡素で効率的な評価を継続

させることが重要

平成19年度　調査研究のねらい

- 学習指導要領に示された「現代文」における内容の（オ）

「目的や課題に応じて
様々な情報を収集し活用して，
進んで表現すること」

に関する，評価の規準と方法を検討すること

研究の意義

「現代文」において
「話す・聞く」能力を
どう育て、どう評価する
かを明らかにする

評価の改善は授業の改善

良い評価方法の開発は、
良い授業につながっていく。

現代文で話す聞く？？？

現行学習指導要領に示された「現代文」における内容の（オ）「目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して，進んで表現すること」とは？

学習指導要領の内容項目　オ は、
「現代文」が必ずしも読解指導に限定されていない
ことを示している。

情報の収集と活用の能力の育成と共に、
表現指導を取り入れることが求められている。

したがって、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が、
一定の学習目標として要求されている。

2005　田中孝一

『高等学校・新教育課程の授業と評価　国語』

本研究の結論

- 「話す・聞く」領域だからこそ、
  ノートに残された
  「学習の蓄積」を元に、
  学習過程も評価していこう。

ノートに学習の足跡が残るような授業をしましょう

簡素で
効率的な
評価を持続

評価を行うための3ステップ

① 単元の評価規準作成

② 年間指導計画への位置づけ

③ 各時間の評価規準の作成

①　単元の評価規準の作成

具体的にどんな力をどうつけるのか

つけたい力を、明らかにする作業

簡素な評価規準で、効率的に評価を

「目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して，進んで表現すること」

web上の記事・新聞記事など

①収集した様々な情報を，自分にとって利用しやすい形や内容に整理し、役立てている。

複眼的思考力

②聞き手からの反論を予想した上で、自らの考えを音声言語にて論理的に表現している。

話す・聞く能力

適切な根拠を伴った主張

読解力に関する、高校生の課題

2007　平成17年度高等学校教育課程実施状況調査

理由や根拠をもとに記述する問題や、
文章を読んで自分の考えを記述する問題で
無解答率が高い

2007　教育課程実施状況調査結果を踏まえた指導上の改善点

- 根拠や証拠を踏まえた**論理的表現力**を育成する
- 伝え合う力を身に付けさせる

国語科改善の基本方針

- 特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること

平成20年1月17日　中央教育審議会
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)74Pより

次期学習指導要領 「現代文B」の内容

- 「現代文B」は、（中略）、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの言語活動を通して、読む能力のみならず、読んだことをもとにして考え、判断・評価しそれをまとめて論理的に表現する能力を育成するとともに、文字・活字文化に対する理解が深まるようにする。

次期学習指導要領「現代文B」においても、論理的な表現力の育成が重視される

平成20年1月17日　中央教育審議会
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)78pより

「目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して，進んで表現すること」

web上の記事・新聞記事など

①収集した様々な情報を，自分にとって利用しやすい形や内容に整理し、役立てている。

複眼的思考力

②聞き手からの反論を予想した上で、自らの考えを音声言語にて論理的に表現している。

話す・聞く能力

適切な根拠を伴った主張

習得した知識を活用・探求しているかどうかを評価する規準

② 年間指導計画上の位置づけ

いつ、どんな力をつけるかを、明らかにする作業

1単元1評価規準(簡素)で、効率的に評価を

若狭高校　現代文(2年)　年間指導計画

時期	教材	評価の規準	a	b	c	d	e
4月	考える楽しみ（評論）	・哲学に関する筆者の主張を読み取っている	○			◎	○
6月	山月記(小説)	・「李徴はなぜ虎になったのか」を，読み取っている	○			◎	○
6月 7月	道具と文化（評論）	・「道具と文化」に関する筆者の主張に対して，具体的な論拠を明確にした上で意見文を書いている	○		◎		○
9月	個性神話のパラドックス(評論)	・個人の生き方や価値観について，自分なりの考えを深め，意見文を書いている	○		◎		○
10月	学力テストの是非(新聞記事)	・学力テストの是非に関する様々な情報を収集し，活用して，進んで口頭で表現する。	○	◎			○
11月	こころ(小説)	・「なぜKは自殺したのか」を読み取っている。	○			◎	○
1月	想像としての現実(評論)	・現実と想像力との関係を，読み取っている。	○			◎	○
2月	誘惑する情報（評論）	・自分と情報との関係について、意見文を書いている。	○		◎		○

a:関心意欲態度　b:話す･聞く能力　c:書く能力　d:読む能力　e:知識･理解

調査研究の対象

今回テキストとして用いた新聞記事の一部

学年	第2学年　理数科(34人)	
領域	現代文「話すこと・聞くこと」領域	
内容項目	オ　目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して，進んで表現すること	
単元	「全国一斉学力調査は是か非か」	
題材	平成19年度　岩手大学　人文社会学部「国語」　入試問題　（朝日新聞4月21日付記事「全国学力調査40年ぶり実施へ」を改変して作られた問題）	
評価の観点	関心・意欲・態度	様々な情報を収集し活用した上で，進んで表現しようとしている。
	話す・聞く能力	①収集した様々な情報を，自分にとって利用しやすい形や内容に 整理し，役立てている。 ②聞き手からの反論を予想した上で，自らの考えを音声言語にて 論理的に表現している。
	知識・理解	音声言語にて表現する際に必要な様々な工夫を理解している。

全国調査40年ぶり実施へ

「学力低下」批判で復活

小学6年生と中学3年生の全員120万人ずつを対象とする「全国的な学力調査」が、来年度に国語と数学（算数）で実施される。文部科学省の専門家検討会議が実施方法を審議し、今月末に最終まとめを発表する予定だ。その一方で、現時点では愛知県大山市が「地方の特色ある教育づくりへの弊害が大きい」と不参加の意向を示している。学年全員への学力テストが競争の過熱を招いて中止されて約40年。「学力低下批判」を機に復活する「全員一斉方式」はどのように検討されたのか。議論のあとをたどり、関係者に聞いた。

（編集委員・氏岡寛弓）

全国学力調査が中止されて以降、文部科学省は抽出方式で「学力」を調査してきた＝02年、東京都内の中学校で

文科省「義務教育を検証」

「全員調査は長い間、タブーだった」。文科省幹部はそう振り返る。

かつての全国学力調査は、56年度に抽出方式で始まった。例えば小学校の場合は、年度によっては国語、社会、算数、理科だけでなく、音楽や図工なども実施するという幅広い調査だった。

61年度から64年度までの間は、中学2、3年生全員を対象とした。ところが、試験当日に成績の振るわない生徒を休ま

文部科学省による全国学力調査
（専門家検討会議の資料などによる）

	全国的な学力調査（2007～）	全国学力調査（1956～66）
学年	小6、中3	小5～中3、高3（年度によって異なる）
規模	【小中】学年全員	【小】全校の5～20% 【中】全校の5～20% （61～64は2、3年全員）【高】全校の10%

③　各時間の評価規準を作成

- 各時間の評価規準をもとに、授業案を考える。

- 各時間の規準はとにかく、簡素に

評価に必要な3つのステップ

① 単元の評価規準作成

② 年間指導計画への位置づけ

ここまでは、シラバス作成の段階で

③ 各時間の評価規準の作成

評価の方法

- 学習過程全体を、
  ①行動の観察
  ②ノート記述の分析

学習プロセス全体を、
評価規準に基づいて評価する。

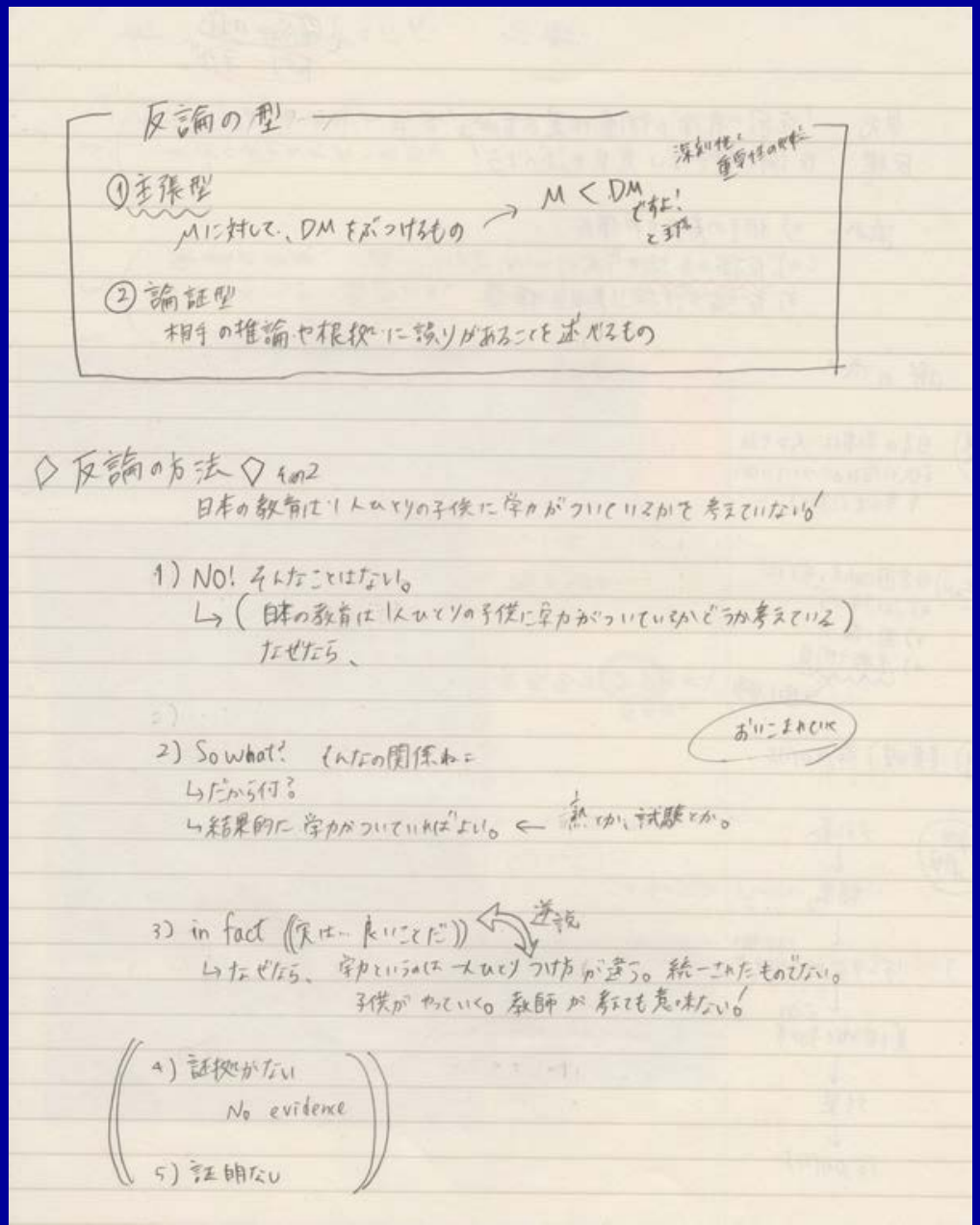
によって評価する。

さらに
  ③定期考査にて、
    「話し言葉で書かれた意見文」を評価する。
    （学習成果の評価）

定期考査における
パフォーマンスを、
評価規準に基づいて評価する。

評価の実際

第2時における生徒のノート記述



反論の型

①主張型
Mに対して、DMをぶつけるもの → M < DM ですよ！と主張
深刻性！重要性の欠如

②論証型
相手の推論や根拠に誤りがあることを述べるもの

◇反論の方法◇ その2
日本の教育は1人ひとりの子供に学力がついているかを考えていない！

1) NO! そんなことはない。
↳（日本の教育は1人ひとりの子供に学力がついているかどうか考えている）
なぜなら、

2) So what? そんなの関係ねー
おいこまれてい
↳だから何？
↳結果的に学力がついていればよい。← 熱心か、試験とか。

3) in fact ((実は…ちがうことだ)) 逆説
↳なぜなら、学力というのは一人ひとりつけ方が違う。統一されたものでない。
子供がやっていく。教師が教えても意味ない！

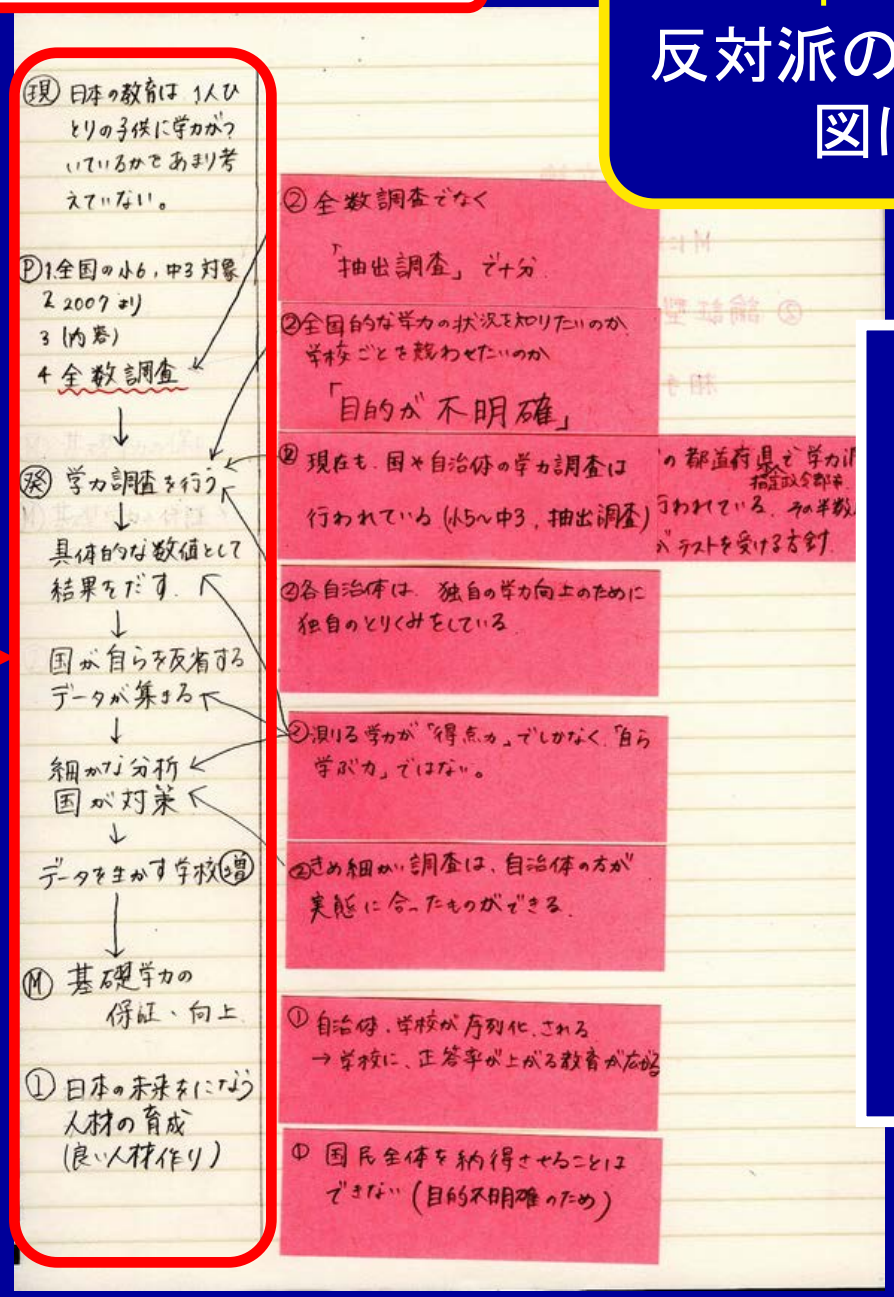
((4) 証拠がない
No evidence
5) 証明ない))

反論の型・方法を習得

第2時における生徒のノート記述

本時の評価規準
反対派の意見を再構成して図に示している

音読された賛成派のスピーチを整理して図示



読まれた意見に対する反論を付箋に記した上で、相手の意見のどこに反論するかを矢印を使って図示している

現状分析

日本の教育は一人ひとりの子どもに学力がついているかをあまり考えていない。

プラン

学力調査を全数調査で行う

発生過程

学力調査を行う

↓

具体的な数値として結果を出す

↓

国が自らを反省するデータが集まる

↓

細かな分析・国が対策

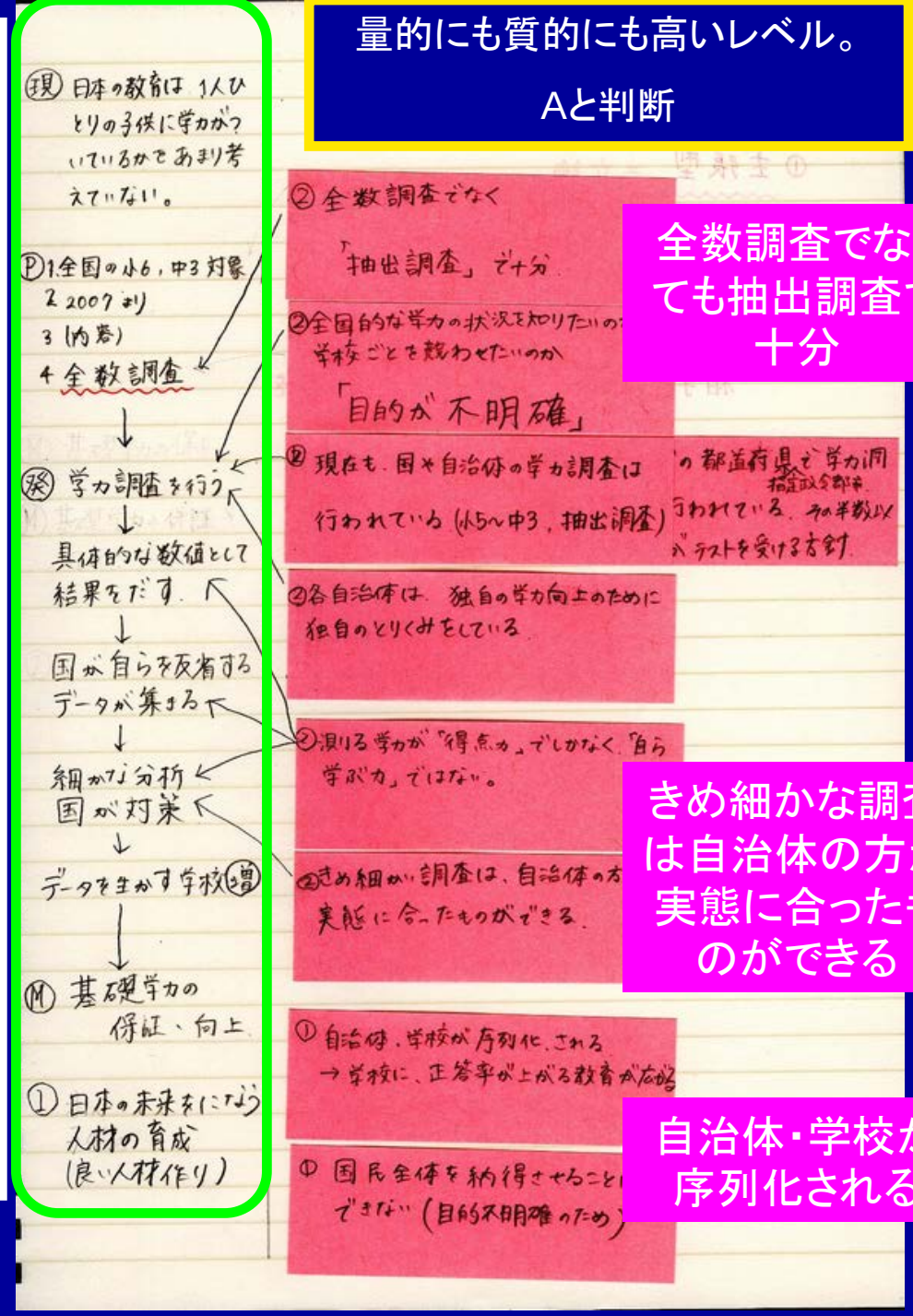
↓

データを生かす学校増

Aの生徒に対しては、次の時間において、ノート記述の良い点をクラスメートに紹介すると共に、周りの生徒を支援するよう促す。

量的にも質的にも高いレベル。

Aと判断



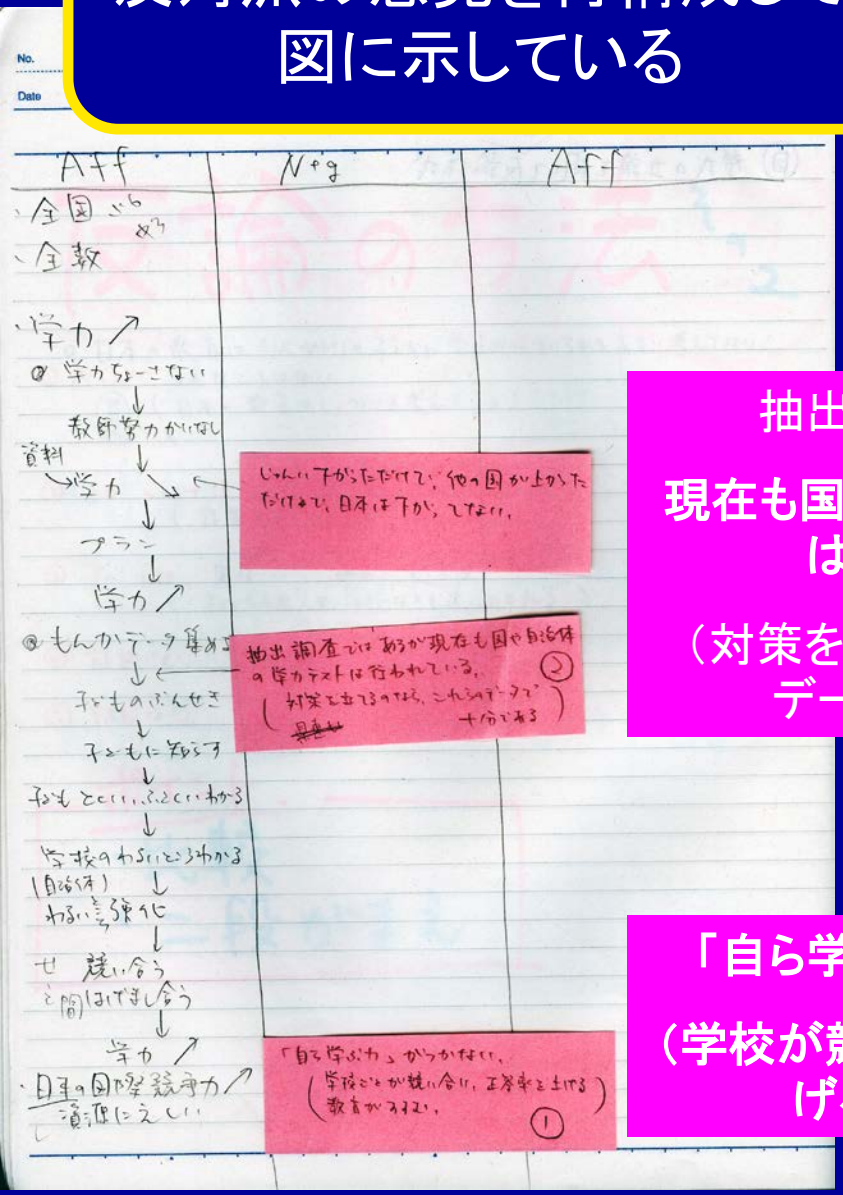
全数調査でなくても抽出調査で十分

きめ細かな調査は自治体の方が実態に合ったものができる

自治体・学校が序列化される

本時の評価規準
反対派の意見を再構成して図に示している

量的には少ないが、
質的に高い反論を
作成して**図示**している
ことからBと判断

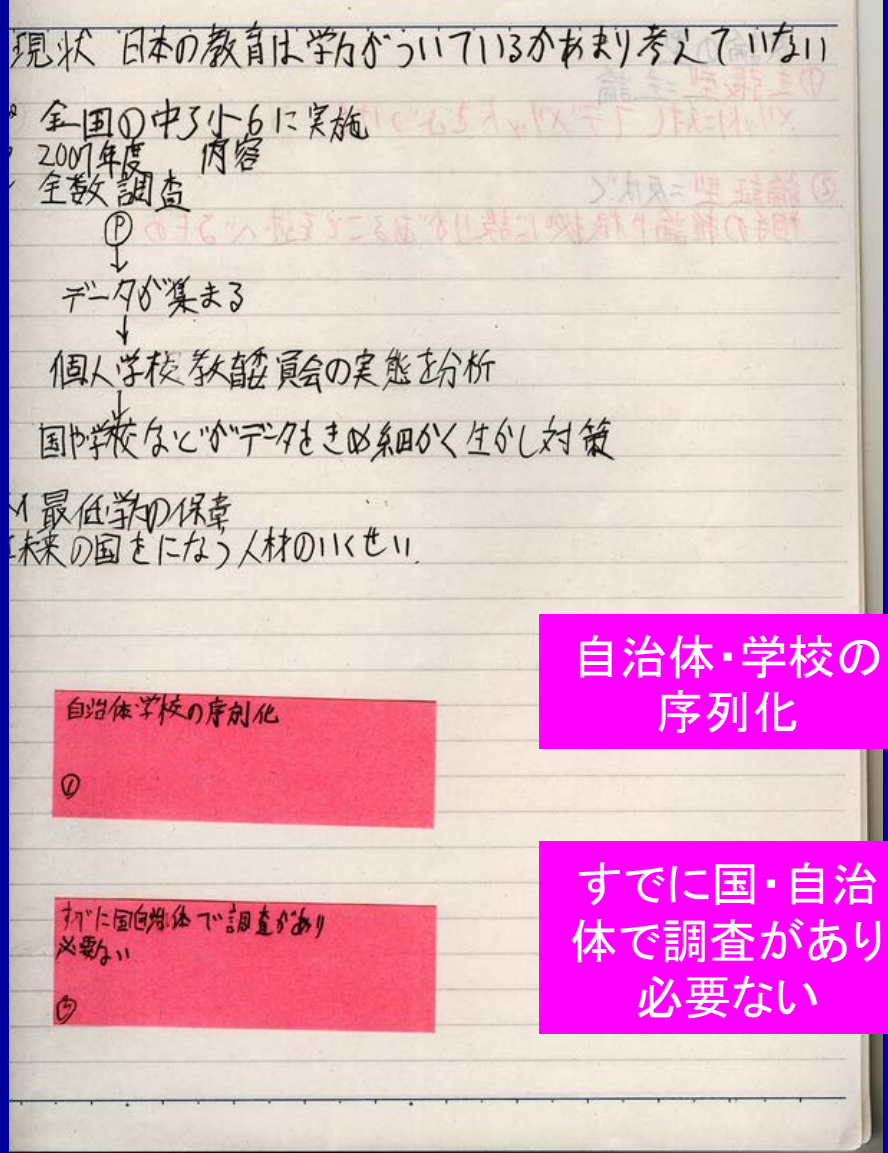


抽出調査ではあるが、
現在も国や自治体の学力テストは行われている。
（対策を立てるのならこれらのデータで十分である）

「自ら学ぶ力」がつかない。
（学校が競い合い、正答率を上げる教育が進む）

Bの生徒に対しては、他者のノートを参考に、より高いレベルを目指すよう促す

本時の評価規準
反対派の意見を再構成して
図に示している



自治体・学校の
序列化

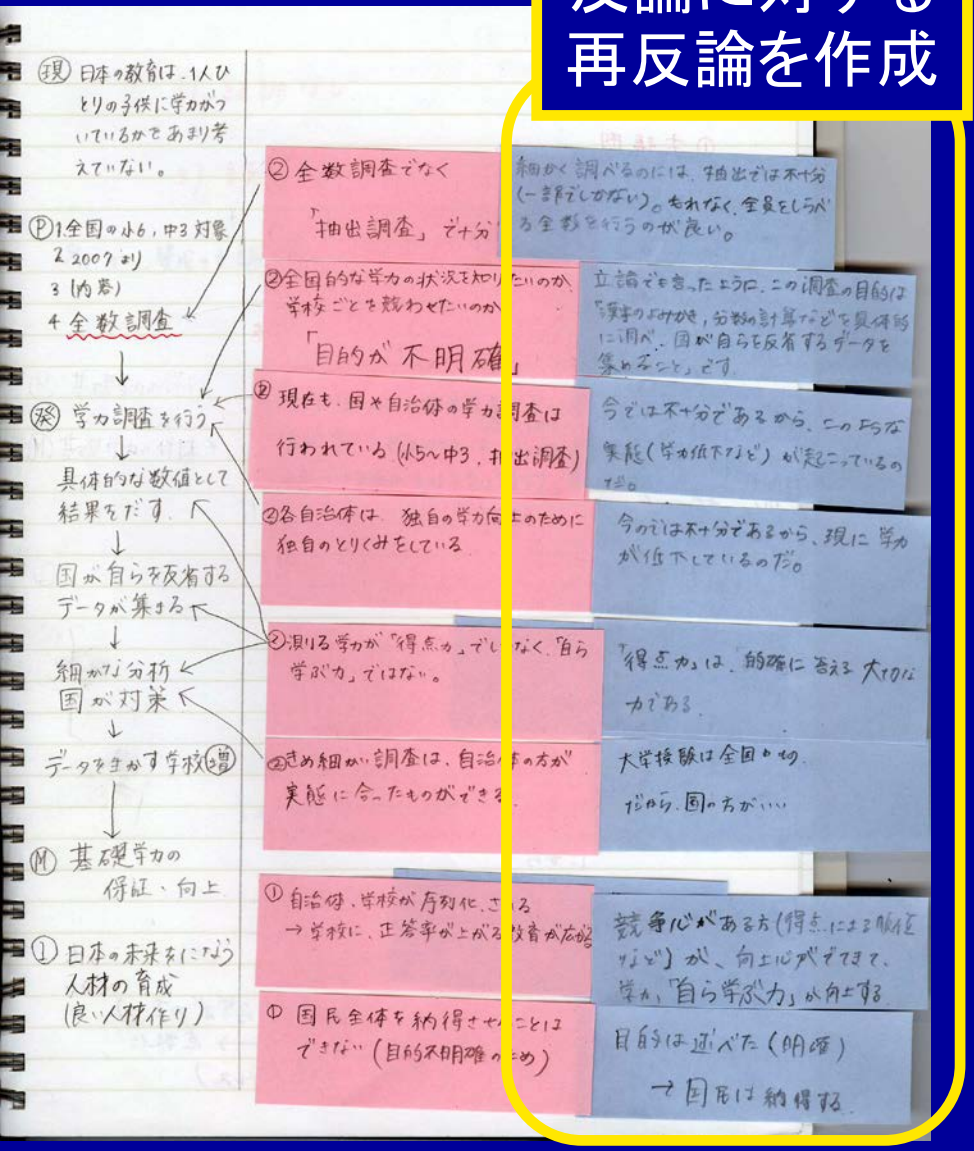
すでに国・自治
体で調査があり
必要ない

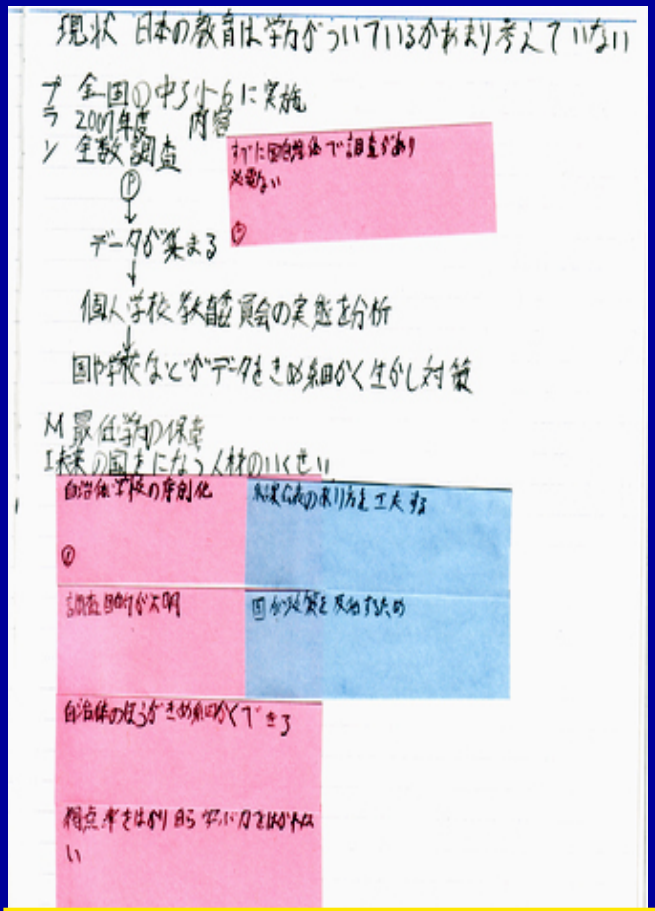
量的に少なく、
質的にもそれほど高い反論を
作成していない。
しかも、どの部分に反論してい
るのかわからず、図示している
とは言えないことからCと判断

**Cの生徒に対しては、
次の時間において、
必ず他の生徒のノートを
参照するよう促すと共に、
授業中に注視し、
活動がうまくいっていないようならば、
積極的に支援する。**

第3時における生徒のノート記述

前時に作った反論に対する再反論を作成





Cと評価した生徒

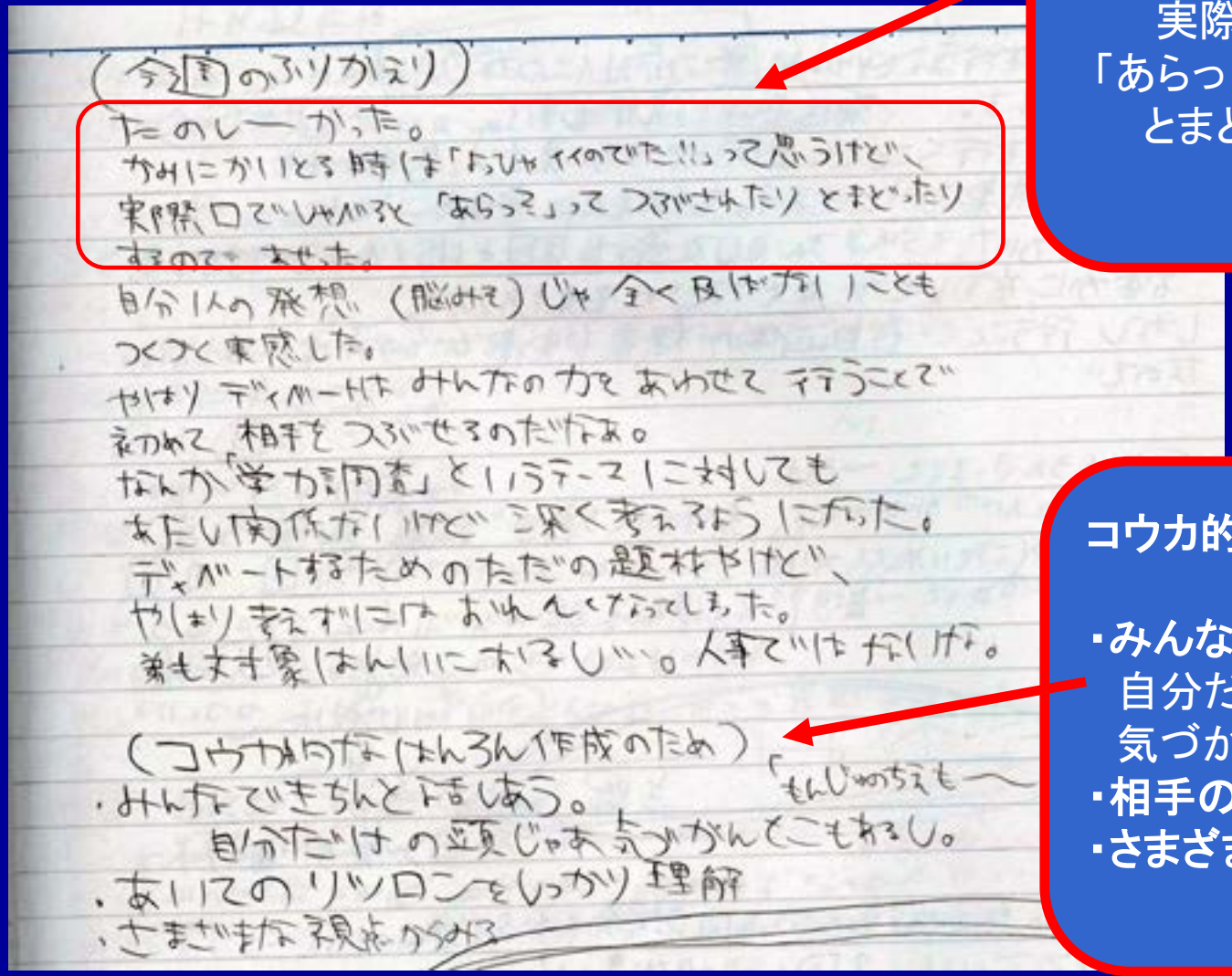
他者のノートを参考にすることにより、赤い付箋が3枚増えた。

付箋を元にした
反論ゲームの場面

ノートに貼った赤の付箋・青の付箋
を元に、隣同士で反論ゲームを行う

隣同士で反論を
言い合う場面

今週のふりかえり


（今週のふりかえり）
たのしーかった。
かみにかいてる時は「よっしゃイイのでた!!」って思うけど、
実際口でしゃべると「あらっ？」ってつぶされたり とまどったり
するので、あせった。
自分1人の発想（脳みそ）じゃ全く及ばないこともつくつく実感した。
やはりディベートはみんなの力をあわせて行うことで
初めて相手をつぶせるのだなあ。
なんか「学力調査」というテーマに対しても
あたし関係ないけど深く考えるようになった。
ディベートするためのただの題材やけど、
やはり考えずにはおれんくなってしまった。
第4対象はんいにかるしい。人事ではないけな。

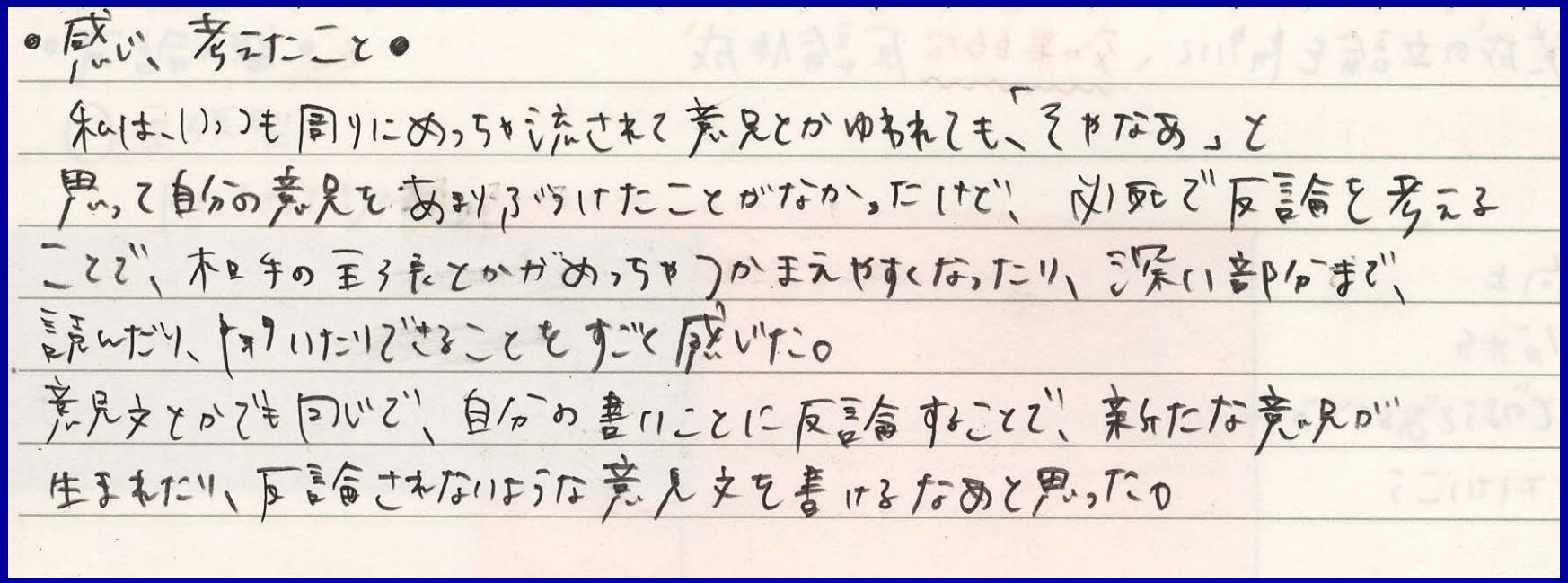
（コウカ的なはんろん作成のため）
・みんなできちんと話しあう。
自分だけの頭じゃあ気づかんこともあるし。
・あいてのリツロンをしっかり理解
・さまざまな視点からみる

たのしーかった。
紙に書いてるときは、
「よっしゃイイのでた！！」って
思うけど、
実際口でしゃべると、
「あらっ？」ってつぶされたり
とまどったりするので、
あせった。

コウカ的なはんろん作成のため

- **みんなできちんと話し合う。**
  自分だけの頭じゃ
  気づかんこともあるし
- **相手の立論をしっかり理解**
- **さまざまな視点からみる**

今週のふりかえり

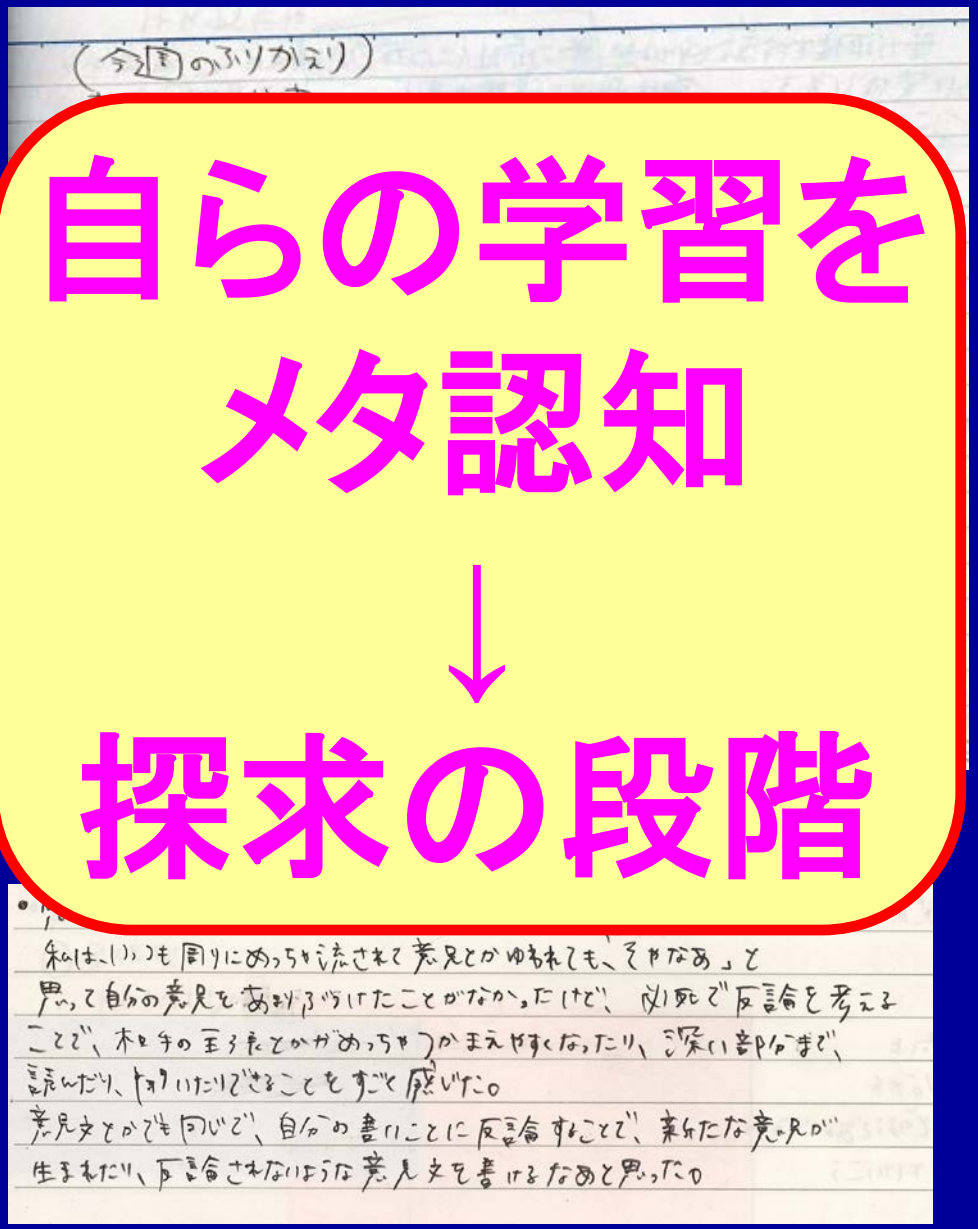


●感じ、考えたこと●

私はいつも周りにめっちゃ流されて意見とかゆわれても、「そやなあ」と思って自分の意見をあまりぶつけたことがなかったけど、必死で反論を考えることで、相手の主張とかがめっちゃつかまえやすくなったり、深い部分まで、読んだり、聞いたりできることをすごく感じた。

意見文とかでも同じで、自分の書いたことに反論することで、新たな意見が生まれたり、反論されないような意見文を書けるなあと思った。

私はいっつも、周りにめっちゃ流されて意見とかゆわれても「そやなぁ」と思って自分の意見をあまりぶつけたことがなかったけど、必死で反論を考えることで、相手の主張とかが、めっちゃつかまえやすくなったり、深い部分まで読んだり、聞いたりできることをすごく感じた。
意見文とかでも同じで、自分の書いたことに反論することで、新たな意見が生まれたり、反論されないような意見文を書けるなぁと思った。



自らの学習をメタ認知

↓

探求の段階

意欲の高まり

知識理解の深まり

能力の高まり

中間考査　試験問題として出題

2 あなたは、「全国学力テストは実施すべきか」という論題（プランは　小学校六年生と中学校三年生に対して、全数調査の形式で学力調査を行うというもの）のディベートに賛成派として参加することになった。賛成派の主張をするとすれば、どのように述べるか。次の状況・条件を踏まえディベートに参加しているつもりで、賛成派としての立論を作成せよ。

○反対派から、全数調査では、正確なデータが反映されないことから、生徒の学力把握は的確には行われず、その結果学校や、教師の対応も間違ったものになり、結果的に学力の向上は図られない、という反論が提出されることがわかった。

以下は、その根拠となる東大教授　渡部氏の論である。（出典はベネッセの web）

あらかじめこの反論を阻止できるような、賛成派としての立論を作成せよ。

「テスト理論の立場から言わせていただくと、今回の学力調査と、PISA・TIMSSやNAEPとでは、実施形式がまるで違うことに触れなければなりません。今回の日本の学力調査は、被験者全員が同じ質問を一斉に受ける全数調査で行われました。それに対して、PISAなどは抽出調査の形式で実施されています。

抽出調査には2つの側面があります。1つは、被験者を無作為に抽出してテストを受けてもらうということ。もう1つは問題自体もたくさんの問題群の中から抽出するということです。子どもが学んでいる領域は多岐にわたります。子どもの学力を正確に見ようとしたら、様々な領域の問題を出して調査する必要がある。たまたま得意な領域の問題だったので出来が良かったとか、勉強をあまりしていないところが出て悪かったということが結果に大きく影響することは避けなければなりません。

そのためには、一人の子どもに全部の問題をテストすることは現実的ではありませんので、出題方法を工夫することになります。複数の問題冊子を用意し、それぞれの冊子ごとに少しだけ同じ問題が重なるようにして作成するのです。たとえクラス全員で受けても、テストの内容は問題冊子によって違う可能性があるわけです。こうした抽出による調査の場合、過去の問題を対策として練習することはほとんど意味がなく、実力が問われることになります。欧米の多くの学力調査は、こうした形式を採用しています。全数調査にしてしまうと、子どもに出せる問題数は限られますので、これで全体を正確に測定・分析することは難しくなります。教育測定の専門家としては、データ収集を主な目的とするなら、データの代表性を重視したいので、日本の学力調査も抽出調査で実施されることが望ましいと思います。」

○ 主張、意見は、冒頭に述べること。
○ 複数の観点を盛り込まないこと。
○ 根拠として、適当な【資料】を用いてもよい。
○ 字数は三百字以内とする（句読点も一字と数える）。
○ 話し言葉で書くこと。
○ 文字言語ではなく、音声言語で伝える際の注意点をふまえて書くこと。
○ 以下の書き出しに続いて書け。（書き出し以前の部分は、三百字に含まない）

ただいまから、賛成派の立論を述べます。

採点規準
自らの考えを
・反論をふまえた上で（十点）
・根拠を挙げながら（十点）
・筋道を立てて（十点）
表現しているか。
なお、上記の条件を逸脱するものは採点の対象としない。
（誤字脱字は一点ずつ減点する）

以上の理由から私は賛成の立場に立ちます。

ここに書かれたものを「学習成果」として、評価する

三　中学生の中山さんと木村さんは、以前に読んだ「蜘蛛の糸」は、「三」の場面が省略されていたことを思い出しました。そして、次のような会話を交わしました。

中山さん　私はこの「三」はないほうがいいと思うな。

木村さん　いや、この作品には「三」があったほうがいいと思うよ。

あなたは、中山さん、木村さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を解答用紙に書かれている書き出しの文の□に書きなさい。そのうえで、あなたがそのように考える理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　書き出しの文に続けて書くこと。

条件2　本文中の表現や内容に触れること。

条件3　八十字以上、百二十字以内で書くこと。（解答用紙に書かれている書き出しの文の字数を含む。）

※左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

私	は	、					
			さ	ん	の	考	え
に	賛	成	し	ま	す	。	

小学校・中学校の学力調査

B問題を参考に作成

活用する力を評価したい

文章作成の条件

○主張、意見は、冒頭に述べること。
○複数の観点を盛り込まないこと。
○根拠として、適当な【資料】を用いてもよい。
○字数は三[illegible]と数える）。
○話し言[illegible]
○文字言[illegible]の注意点をふまえて書くこと。
○以下の[illegible]以前の部分は、三百字に含まない）

採点規準

・筋道を立てて[illegible]上で（十点）
[illegible]から（十点）
表現しているか。（十点）
なお、上記の条件を逸脱するものは採点の対象としない。
（誤字脱字は一点ずつ減点する）

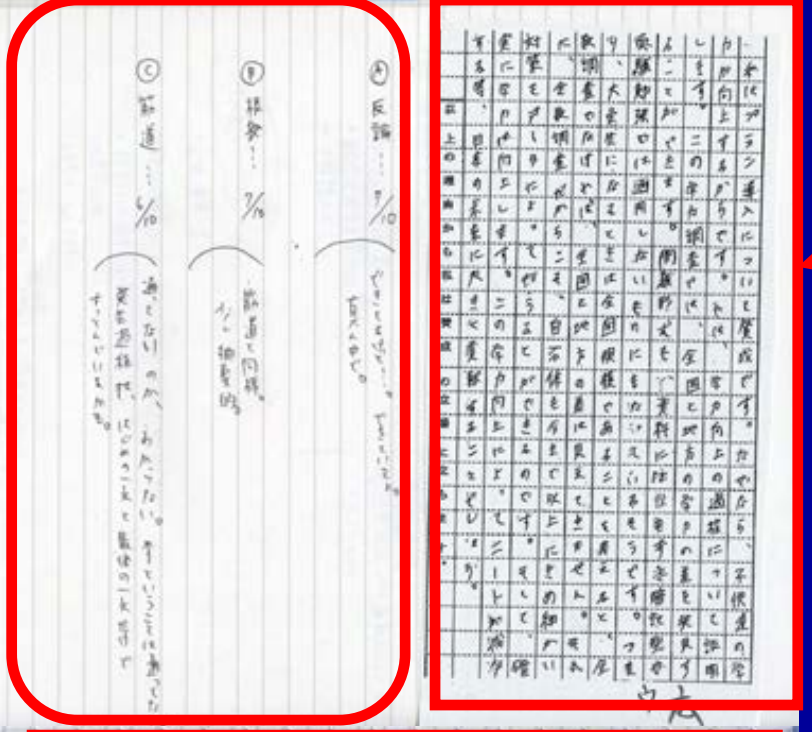
そして
テストで終わりではない

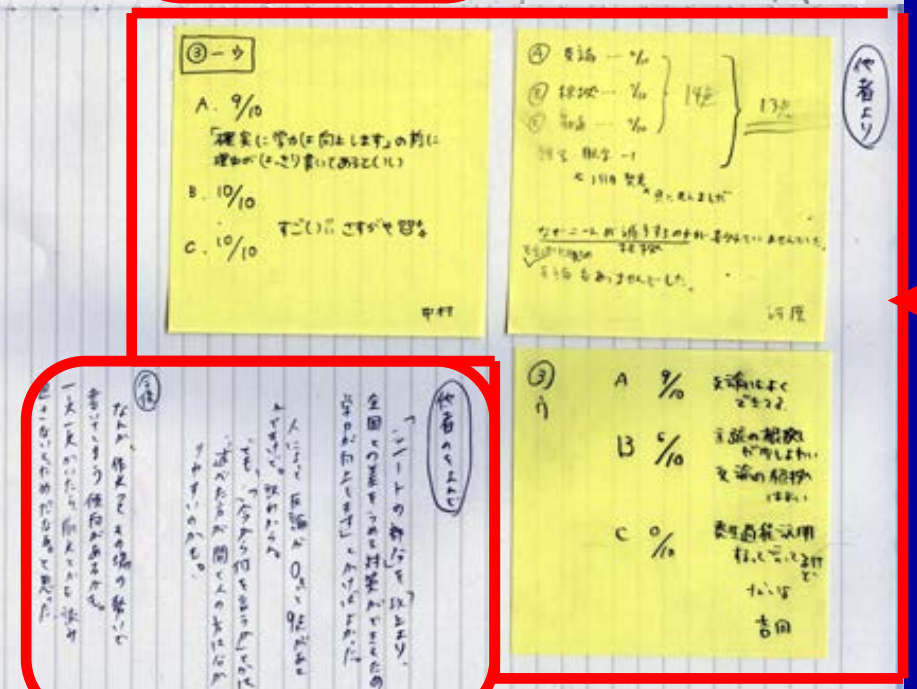
解答を使って
学習を深める！！

第6時における生徒のノート記述

評価規準に沿って、自己評価を行う。

試験中に書いた答案のコピー





他者からの評価とコメント

他者からのコメントを読んで考えたこと

今後どうすれば より良くなるか。

第6時における生徒のノート記述

評価規準に沿って、自己評価を行う。

他者からのコメントを読んで考えたこと

今後どうすればより良くなるか。

以上の理由から私は賛成の立場に立ちます。

メリットは全国的な学力向上です。

食に関する目的は全国的な学力向上です。

大学受験や就職は全国的な学力の勝負です。

われわれが行われた知識を必要とする社会では、

人の弱点を知る必要があります。

それぞれの教育の問題点は、

それぞれの教育の問題点は、

立つデータは、

そうすると全国的な学力を向上させれば、

上がりまるほど、

固力のリ向上につながります。

A. 反論 … 5/10

学力向上ということはしっかり理論だけて書けている。

B. 根拠 … 5/10

どこから教育の問題点ができたのか…

C. 筋道 … 5/10

教育の問題点??

構成はよくわからない。

〈他者からのコメントを読んで〉

「自分の意見を冒頭に書く」の「自分の意見」のとらえかが人によってちがうかたいだ。

確かに「正確なデータがとれない」という点からは守れていない。

それが書ければ反対派への反論がしっかりと書けていることになるのだろう。

メリットへの根拠は書けていたようだ。

発生要素はしっかり書いてあるのだが、伝わりにくかったようなので

もっとわかりやすく書く必要があると思った。

〈今後どうするとよいか〉

やっぱり発生要素をわかりやすく初めの方に書くべきだ。

字はきれいに書く!!

とりあえずどこに何が書いてあるか、わかりやすく書く

ウ

Ⓐ 5/10

Ⓑ 9/10

Ⓒ 10/10

辻井

字がきれいで読みやすかった。筋道のしっかり通った文で、しかも根拠が明確に示されており、読む人を納得させる文の構成であった。しかし、反対派への反論がどこに書いてあるか分からなかった。

⑨ウ

A 8/10　B 10/10　C 5/10

・良い点

根拠がよく書けていて、納得のできる文章になっている。

・悪い点

冒頭に自分の意見を述べていない。

メリットの発生が書けていない。

過程

抽出調査はよく考えできているけど、「正確なデータがとれない」という反論からガードできていない。

村田

④-ウ

Ⓐ反論 … 9/10

Ⓑ根拠 … 8/10

Ⓒ筋道 … 9/10

・字もキレイで、すごく読みやすい。

・根拠がハッキリしていて良いです

金森

試験中に書いた答案のコピー

他者からの評価とコメント

自らの学習に対するメタ認知

自らの学習をメタ認知

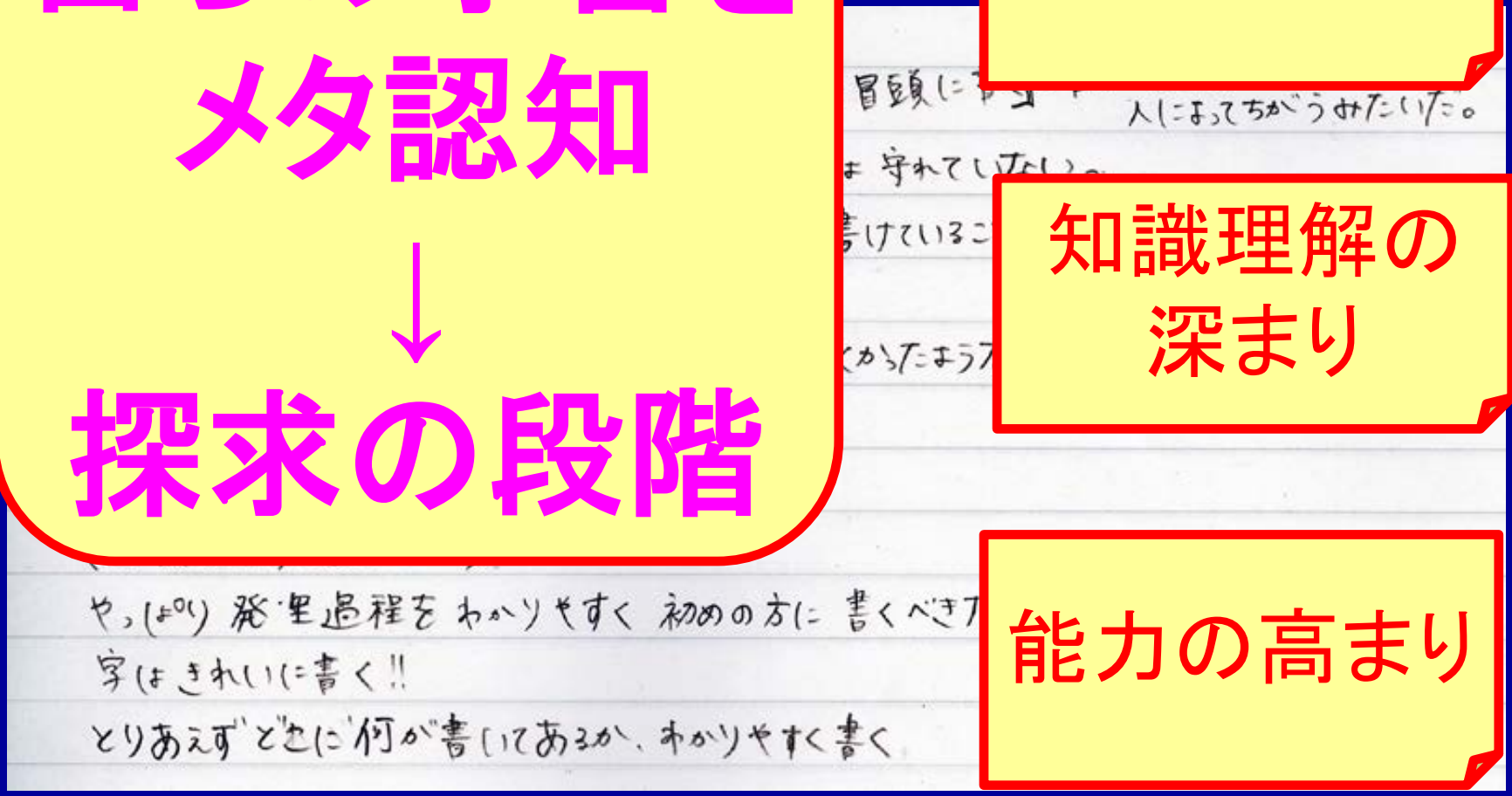
↓

探求の段階

意欲の高まり

知識理解の深まり

能力の高まり



本研究の結論

- 「話す・聞く」領域だからこそ、
  ノートに残された
  「学習の蓄積」を元に、
  学習過程も評価していこう。

ノートに学習の足跡が残るような授業をしましょう

簡素で
効率的な
評価を持続

学校行事でのスピーチ

22008-2-7
若狭高校討論会
赤ちゃんポストの是非

日本教育新聞　平成19年（2007年）12月3日（月曜日）　（8）

現代文 ノート・付せんに意見を書かせる

言語力の評価方法を工夫

思考の過程チェック

福井県立若狭高校

思考力や判断力、表現力を伴った言語力の育成に注目が集まる中、そうした総合的な能力をどのように評価するかも大きな課題。福井県立若狭高校（吉谷活也校長、生徒989人）は昨年度から、文部科学省の「学力の調査に関する研究指定校」として、現代文を中心に、評価の在り方を模索している。ノートや付せんで示された生徒の学習記録から、言語の活用能力を評価しようという取り組みだ。

県立若狭高校が10月に開いた現代文の研究発表。入試問題や新聞記事などの資料を基に、2年生の生徒が話し合ったのは今年4月、43年ぶりに実施された学力・学習状況調査について、「全国一斉学力調査は是か非か」が単元のテーマだ。

さまざまな情報を活用しながら、考えを声に出して、論理的に表現することを目標に設定した。

授業では初め、教師が用意した賛成派の意見を読み、その論旨をノートにまとめさせる。次に、その意見に対する反論を付せんに書いて張らせる。うまくいかない生徒には隣同士で相談させる。

グループを組んで、効果的な反論やそれに対する再反論をつくらせた後、反論ゲームを行った。1人の生徒に、賛成・反対両方の立場に立って考えさせる。最終的には、クラス全体で「良い反論とはどんなものか」について話し合い、ノートにまとめさせた。

授業した渡邊久輝教諭は「自分の考えをノートや付せんに書き出させた上で、それぞれの意見を交流させる、という過程を何度も繰り返した。これによって、生徒の論理的な言語活用能力が高まっていった」と話す。

◇

来年告示される学習指導要領について、国語科が改善すべき方向性は、「論理的な言語活用能力の育成」とされている。その背景にあるのは、PISA調査などで明らかになった記述式問題への無回答率の高さだ。

国立教育政策研究所が実施した高校の教育課程実施状況調査でも、理由や根拠を基に自分の考えを書く問題の無回答率が高かった。

同校の生徒にもそうした傾向は見られ、正しいと確信しているとしない生徒が多かった。「1年生では書くことに対する抵抗感を減らし、2年生の後半から質に転換する」と渡邊教諭は話す。

単元によっては、授業の半分近くで文章を書かせることに充てる。テーマは「学校前のコンビニに、どんな商品を並べたら売れるか」「携帯電話に依存することは思いこなのか」など、生徒に身近な話題が多い。

入学当初は、3行程度から始め、1年生の終わりには、ノート1ページくらい、授業中に文章を書かせるようにするという。

◇

生徒がまとめたノートを最も活用するのは評価の時間だ。図1・2は、「学力調査」の単元で、生徒がまとめたノートの例。

図1のノートは賛成派の意見を、要点をつかんで整理した上で、それぞれに対応した反論（付せん）を加えることができている。それに対して、図2の生徒は、示された意見をうまくまとめられず、反論も2つにとどまっている。

この日の学習は「賛成派の意見をノートに図示できているか」「効果的な反論について話し合うことができているか」「この日の学習をノートに整理できているか」などの視点で評価する。

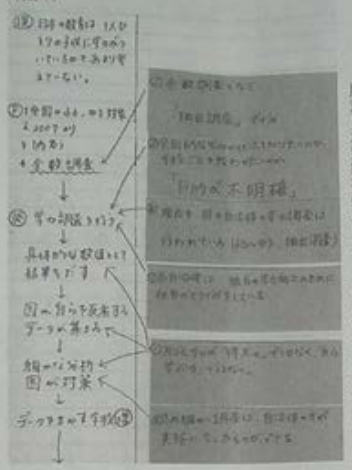
ノートは、ほぼ毎時間回収。空き時間などを利用して読み、次時の指導に生かすという。

課題解決の過程を通して学習を評価する「パフォーマンス評価」を研究する京都大学大学院の西岡加名恵准教授は、長期的な見通しを持ちながら、日々の授業の指導と評価を組み立てている点が言語活用能力の育成につながっているのではないか、と見ている。

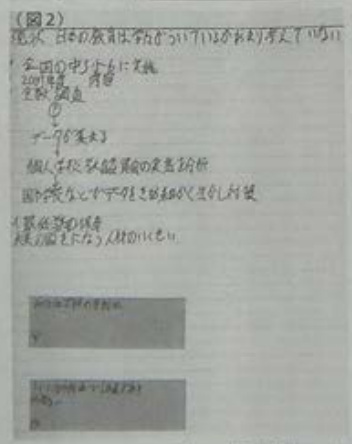
若狭高校☎0770・52・0007

身近なテーマ扱い賛否問う

（図1）



（図2）



高校